

令和 6 年 5 月 26 日現在

機関番号：35307

研究種目：学術変革領域研究(B)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H05722

研究課題名（和文）中世日本の地域寺社をめぐる遊歴・巡礼・参詣の総合学際的研究

研究課題名（英文）Comprehensive and Inter-disciplinary study on Wandering to study and Pilgrimages around Buddhist temples and Shinto-Shrines in Medieval Japan

研究代表者

苅米 一志 (KARIKOME, Hitoshi)

就実大学・人文科学部・教授

研究者番号：60334017

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,200,000円

研究成果の概要（和文）：日本中世の地域寺社をめぐる遊歴・巡礼・参詣について、文献史学・文学・美術史にわたる研究者を分担者として迎えて、研究が展開された。各研究分担者が当該課題に関する研究を進めるとともに、随時に研究会をオンラインで開催した。また総括班の運営により、全体会を三度開催し、そのうち最後の一回は国際研究集会であった。当該課題についての理解が深まるとともに、西洋史の研究者との交流も進み、西洋と日本の中世社会が、普遍宗教の教団・修道制という点において、多くの共通点をもつことが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本中世の地域寺社をめぐる遊歴・参詣・巡礼について、伊勢参詣・修験道・四国遍路の三点について史料を蓄積し、また活字化することができた。地域寺社の静態についても考察を深めることができ、特にその民衆救済の多様性を確認することができた。さらに総括班のもとで、観想修道会班・托鉢修道会班・イエズス会班とも研究交流を重ねた。その結果、日本中世社会が西洋のそれと宗教の面において多くの共通点をもつこと、しかし両者に相互の影響関係はなく、その共通性は一種の平行進化のようなものであり、社会そのものが同じような発展段階に達していたことの現れであることも確認することができた。

研究成果の概要（英文）：Research was carried out on the history of pilgrimage, pilgrimage and homage to local temples and shrines in medieval Japan, with researchers in the fields of historical documents, literature and art history as contributors. Each member carried out research on the subject, while study groups were held online from time to time. Three plenary sessions were held under the management of the general group, the last of which was an international research meeting. As well as deepening understanding of the subject, exchanges with researchers of Western history were promoted, and it was confirmed that Western and Japanese medieval societies had many points in common in terms of the cult of universal religion and monasticism.

研究分野：日本中世史

キーワード：中世寺院 文献史学 文学 美術史 遊歴 巡礼 参詣

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、地域社会における寺社と民衆の関係を当初の研究テーマとし、複数の荘園を対象として調査研究を行ってきた。その過程で、地方・地域寺社に所蔵される歴史資料が、一般に紹介・刊行されているものよりもはるかに膨大であることに気づいた。特に寺院は多くの古建築を有し、その他にも古文書、寺院縁起、絵図、仏像、仏具、石造物が存在する。

これらは、宗教行事において有機連関的に使用されるメディア・リソースと理解でき、その使用のあり方を考察しなければ、宗教者が民衆に与えたインパクトは理解できないことに思い至った。同時にこうした資料からは、宗教者が中央と地方を往来し、民衆もまた広汎な地域から参詣し、行事を聴聞していることも判明した。

研究開始の当初、史資料をめぐる新たな方法論としては、第一に寺院所蔵の資料を総体的・横断的に考究する潮流が目玉された(中山一磨監修『寺院文献資料学の新展開』臨川書店、2019年～)。これは寺院の経蔵・宝蔵資料に対し、先見的な価値判断を排除して考察の対象とするものであり、古文書史料だけでなく、経典・儀軌などの聖教類、仏像・神像・仏具・絵画などの考古学的・美術史的な資料を有機連関的に用いる点に特徴がある。

第二に、古文書学の分野でも新たな潮流が見られた。春田直紀を中心とする「中世地下文書研究会」は、地方に残された文書群に、従来の古文書学的な様式論に則らない文書があることに注目し、これらを「地下文書」と命名した。研究の進展により、中央大寺社の所蔵文書に偏っていた地方・地域史の研究は、地方・地域の寺社文書に焦点をあわせる方向に向かっている。本研究は、以上のような資料論の潮流に影響を受けたものである。

さらに、寺社参詣史の研究においても、新たな潮流が生まれていた。全国的なレベルで、世界遺産への登録の欲求が高まる中、あらためて地方・地域の参詣・巡礼史跡を学術的な次元でとらえなおす潮流が見られた。2014年には、高野山密教文化研究所を中心に「巡礼遍路研究会」が設立され、研究誌『巡礼遍路研究』が発行された。翌2015年には、愛媛大学法文学部附属機関として、「四国遍路・世界の巡礼研究センター」が設立され、『四国遍路と世界の巡礼』が発行された。従来、こうした分野の研究は近世に偏向していたが、中世さらに古代にまで遡及して研究を行う方法論が模索されつつあった。

2. 研究の目的

本研究は、以上のような潮流を受け、全体テーマ「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合」の一翼(日本中世寺社班)を担い、史資料を宗教メディアとしてとらえ、それが日本中世において世界認識と社会統合にどのように寄与したかを探るものである。

全体テーマである、宗教的主体が民衆に対し、どのように、かついかなる種類のメディアを創造したか、メディアがどのように民衆の世界認識を構築したか、世界認識がどのように社会統合に寄与したか、という問いに対し、日本中世史研究の分野から考察を加え、比較検討を行うものである。具体的には、中世日本の地域寺社における人的・物的リソースを民衆教化のためのメディアととらえ、その構造を明らかにした上で、寺社をめぐる僧侶・神職の遊歴、および民衆の参詣・巡礼に焦点をあて、宗教者と民衆との相互関係、それらの創り出す世界認識と、それにより醸成される宗教的社会統合のあり方を追求する。

3. 研究の方法

方法論としては、第一に地域寺社の有する資料(教化のメディア)に注目し、古文書史料を軸としながら、寺社自体の構造と民衆との関係性を明らかにする。第二に、古典籍としての僧伝史料・寺社縁起を収集してその読解を進め、僧侶・神職による修行のあり方、彼らの移動と交流がとりもつ地域寺社と中央大寺社、あるいは地域寺社どうしの関係性を明らかにする。第三に、考古学・美術史分野の資料を活用し、かつ移動・交流に使用された経路を実地踏査して、遊歴・参詣・巡礼の実態について体感できる次元まで解明する。以上を通して、中世日本における地域寺社により、民衆生活の次元でどのように宗教的・呪術的・観念的な世界認識が構築され、社会統合がなされていたかを具体的に明らかにするものである。

4. 研究成果

本研究においては、各研究者が従来から扱ってきた史資料を中心として、主に寺社の構造を明らかにする作業を行った。苺米一志(研究代表者)は、備前国金山寺・安養寺・西大寺・本蓮寺の所蔵文書により、寺院の僧団組織を明らかにした。川崎剛志(研究分担者)は、大和国葛

城・大峯・吉野および紀伊国熊野の諸地域における修験道関連の寺社をとりあげ、各々の組織構造を明らかにした。守田逸人(研究分担者)は、讃岐善通寺・阿波国大瀧寺・土佐国金剛福寺など四国地方における巡礼関連の寺社をとりあげ、特に中世初期における寺社組織の成立と変容を明らかにした。服部光真(研究分担者)は、三河国普門寺・遠江国本興寺・大和国円成寺などをとりあげ、寺院の構造と民衆との関係について、特に葬送と追善の側面から明らかにした。

小林郁(研究分担者)は、伊勢神宮を中核とする組織構造をとりあげ、民衆との関係について、特に参詣の興隆と不可分の関係にある御師の活動を中心に解明した。佐々木守俊(研究分担者)は、近畿地方における寺院の仏像・像内納入品・印仏の調査を進め、それが民衆によってどのように崇敬・利用されてきたかについて考察した。これらと平行して、それぞれの研究成果を持ち寄り、研究会を開催し、またの内容をニュースレターなどの形で公開した。

各研究分担者がそれぞれの課題の研究を進める一方、随時の研究会をオンラインで開催した。また総括班の運営により、2021年3月に全体会(観想修道会班・托鉢修道会班・イエズス会班との合同)を開催してキックオフとした。2021年9月にはイエズス会班との合同研究会「科学、医療、宗教の相互連関 中近世のキリスト教と仏教を中心に」を開催し、日本中世寺社班からは研究代表者がコメンテーターをつとめた。同年10月には全体研究会として「アクアマニールと典礼空間の形成」を開催し、同じく研究代表者がコメンテーターをつとめた。同年12月には全体シンポジウムとして「東西中世における修道院・寺社の書物文化 制作・教育・世界観の変容」を開催し、日本中世寺社班からは1名の報告者(川崎剛志、研究分担者)を出した。2023年1月に全体会「ラテン・キリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」、同年11月に全体会(国際研究集会)「有形～無形を超越する 前近代東西ユーラシアの宗教とメディア」を開催し、研究成果を持ち寄り、東西の宗教メディアの共通点を探った。

大きな成果として、ユーラシア大陸の東西の端に位置する後進地域であるヨーロッパと日本においては、普遍宗教による教団・修道制の展開という点で多くの共通点が見られ、互いの影響関係が想定しがたいものの、極めて強い共時性の存在を確認することができた。

なお、全体会と共同の主要成果として、下記のもの挙げられる。

書籍

(1) Toshio Ohnuki, Gert Melville, Yuichi Akae, and Kazuhisa Takeda (eds.), *Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)*, Münster: LIT Verlag, 2024

(2) 大貫俊夫・赤江雄一・武田和久・苅米一志編『修道制と中世書物』八坂書房、2024年

国際研究報告

(1) Tshuyoshi Kawasaki, Humika Araki and Asami Miura in the Session Number:318, *Transcending and Constructing Religious Spaces: Pilgrimage in Medieval Japan and Europe*, International Medieval Congress 2022, Leeds (Monday 4 July 2022, 16.30-18.00)

(2) Toshio Ohnuki, Kazuhisa Takeda and Hitoshi Karikome in the Session Number:1516, *'Entangled' Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity: A Comparison with Medieval Japanese Buddhism*, International Medieval Congress 2023, Leeds (Thursday 6 July 2023, 09.00-10.30)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 苅米一志	4. 巻 31
2. 論文標題 備前頼宮氏についての基礎的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 吉備地方文化研究	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木守俊	4. 巻 6
2. 論文標題 月輪の像内納入について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 仏教芸術	6. 最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部光真	4. 巻 47
2. 論文標題 鎌倉末期大和国宇智郡の領主	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 2-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部光真	4. 巻 156
2. 論文標題 古代の山寺を語る史料	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 90-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部光真	4. 巻 92
2. 論文標題 中世木札研究の一視点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈良歴史研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部光真	4. 巻 2021号
2. 論文標題 近世前期の都市寺院における惣寺と寺僧	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 元興寺文化財研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守田逸人	4. 巻 90
2. 論文標題 香川大学図書館神原文庫と所蔵史料について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 106-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木守俊	4. 巻 70
2. 論文標題 新造された小仏像の像内納入について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 清泉女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木守俊	4. 巻 10
2. 論文標題 浄瑠璃寺吉祥天立像の納入摺仏について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 パラゴネ	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林郁	4. 巻 9
2. 論文標題 神宮御師橋村家資料における新出の中世道者売券について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 皇學館大学研究開発推進センター紀要	6. 最初と最後の頁 331-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 47
2. 論文標題 『日本靈異記』の成立 日中の仏教説話集の編纂意識を手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 91(3)
2. 論文標題 古代地方寺院の性格と機能 地方豪族と住僧の検討を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 62
2. 論文標題 『東大寺誦講文稿』における孝子伝的記述の特質 抹消（擦消）の意味と史的背景をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 古代文学	6. 最初と最後の頁 83-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌倉佐保	4. 巻 69
2. 論文標題 「開発領主」と荘園の形成 荘園をどう教えるか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史海	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苅米一志	4. 巻 106
2. 論文標題 魚食と肉食のあいだー中澤克昭著『肉食の社会史』によせて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 民衆史研究	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林郁	4. 巻 39
2. 論文標題 神宮文庫所蔵『来田家旧蔵資料』の中世文書について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 三重県史研究	6. 最初と最後の頁 69-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千枝大志	4. 巻 27
2. 論文標題 Yamada Hagaki (山田羽書) : An Investigation of Japan's Oldest Private Paper Currency-A Numismatic Study of Japan's Oldest Paper Currency in the Tokugawa Period	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部光真	4. 巻 882
2. 論文標題 元興寺の歴史と伝説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 近畿文化	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 5
2. 論文標題 摂関院政期における疾病(障害)表現の基礎的考察 四肢の疾病・盲・皮膚疾患を中心として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 障害史研究	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守田逸人	4. 巻 9
2. 論文標題 平安時代後期の讃岐国善通寺・曼荼羅寺地域における「聖域」空間の成立と巡礼僧	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 Max Moerman, and Caleb Carter, Defining Shugendo: Critical Studies on Japanese Mountain Religion
3. 学会等名 IMAP Lecture (九州大学) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 Image-Building on Kumano Pilgrimage in Medieval Japan: Origin, History, and Geography ”
3. 学会等名 International Medieval Congress 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 鎌倉中期の金剛山大規模修造と『金剛山縁起』――ノ橋文庫蔵『金剛山勸進帳』（弘長二年、真祐自筆署名）をめぐって
3. 学会等名 仏教文学会大会シンポジウム「葛城二十八宿の仏教文学史的環境」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林郁
2. 発表標題 中世後期における伊勢御師の様相 道者売券を中心に
3. 学会等名 2022年度地方史研究協議会 第72回（三重）大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 千枝大志
2. 発表標題 Yamada Hagaki (山田羽書): An Investigation of Japan's Oldest Private Paper Currency a numismatic study of Japan's oldest private paper currency in the Tokugawa period
3. 学会等名 INC (国際貨幣学会議) 2022ワルシャワ大会 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 中世善通寺領の史実と伝承をあるく
3. 学会等名 日本地理学会大会2022 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 湯浅治久
2. 発表標題 地下文書の生成・変容と権力秩序 近世地方文書への道程
3. 学会等名 中世地下文書研究会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 苅米一志
2. 発表標題 Entanglements in the Buddhism of Medieval Japan: Sects, Doctrines, and Pastoral Care
3. 学会等名 International Medieval Congress 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 千枝大志
2. 発表標題 Re-examination of the relationship between & "Yamada Hagaki (山田羽書)
3. 学会等名 10th Joint Meeting of ECFN and Nomisma.org & 2nd BulgNR (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 千枝
2. 発表標題 An Investigation of Japan's Oldest Private Paper Currency a numismatic study of Japan's oldest private paper currency in the Tokugawa period
3. 学会等名 第112回経済史研究会 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本誠
2. 発表標題 Temples and Do in Ancient Japan: The Roles of Powerful Local Families and Village Elites in Local Buddhist Facilities
3. 学会等名 Princeton University, Center for Culture, Society and Religion, Workshop "Thinking Through Minshuh-Bukkyoh; Popular Buddhism and the Study of Premodern Japan (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 Andrea Castiglioni et al, Kawasaki Tsuyoshi as contributing author	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bloomsbury USA Academic	5. 総ページ数 287
3. 書名 Defining Shugendo : Critical Studies on Japanese Mountain Religion	

1. 著者名 板倉聖哲・高岸輝編、佐々木守俊（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羽鳥書店	5. 総ページ数 800
3. 書名 日本美術のつくり方	

1. 著者名 元興寺・元興寺文化財研究所編、服部光真（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 196
3. 書名 図説元興寺の歴史と文化財	

1. 著者名 元興寺・元興寺文化財研究所編、服部光真（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 236
3. 書名 日本仏教はじまりの寺 元興寺	

1. 著者名 橋本道範編、苅米一志（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 456
3. 書名 自然・生業・自然観	

1. 著者名 就実大学吉備地方文化研究所編、苅米一志（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 就実大学吉備地方文化研究所	5. 総ページ数 64
3. 書名 吉備地方中世古文書集成（4）美作豊楽寺文書	

1. 著者名 愛媛県歴史文化博物館編、服部光真（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 伊予鉄総合企画	5. 総ページ数 239
3. 書名 浄土寺・浄瑠璃寺と写し霊場	

1. 著者名 木村茂光・高木徳郎編、鎌倉佐保・守田逸人（共編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 323
3. 書名 荘園研究の論点と展望 中世史を学ぶ人のために	

1. 著者名 中島圭一編、千枝大志（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 日本の中世貨幣と東アジア	

1. 著者名 吉村武彦他編、藤本誠（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 324
3. 書名 シリーズ 地域と古代日本 東国と信越	

1. 著者名 戸川点編、鎌倉佐保（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 小径社	5. 総ページ数 312
3. 書名 平安時代はどんな時代かー摂関政治の実像	

1. 著者名 Toshio Ohnuki et al, 苅米一志（共著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 LIT Verlag	5. 総ページ数 280
3. 書名 Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)	

1. 著者名 長谷川賢二・徳永誓子、川崎剛志（共編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 342
3. 書名 論集 修験道の歴史 1 修験道の歴史とその組織	

1. 著者名 長谷川賢二・徳永誓子、川崎剛志（共編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 316
3. 書名 論集 修験道の歴史3 修験道の文化史	

1. 著者名 大貫俊夫・赤江雄一・武田和久、苅米一志（共編著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 修道制と中世書物	

1. 著者名 地方史研究協議会編、千枝大志・小林郁（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 雄山閣出版	5. 総ページ数 314
3. 書名 " 出入り " の地域史	

1. 著者名 宮治昭他編、佐々木守俊（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 704
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア アジアの中の日本	

1. 著者名 佐々木虔一他編、藤本誠（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 552
3. 書名 古代の交通と神々の景観 港・坂・道	

1. 著者名 守田逸人（共編著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 四国遍路世界遺産登録推進協議会	5. 総ページ数 225
3. 書名 四国遍路関係史料集 古代・中世編	

1. 著者名 春田直紀編、湯浅治久（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 列島の中世地下文書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ReMo研究 中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合 https://religious-movements.com/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐々木 守俊 (Sasaki Moritoshi) (00713885)	清泉女子大学・文学部・教授 (32632)	
研究分担者	服部 光真 (Hattori Mitsumasa) (00746498)	公益財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員 (84601)	
研究分担者	守田 逸人 (Morita Hayato) (10434250)	香川大学・教育学部・准教授 (16201)	
研究分担者	川崎 剛志 (Kawasaki Tsuyoshi) (70281524)	就実大学・人文科学部・教授 (35307)	
研究分担者	小林 郁 (Kobayashi Kaoru) (90779654)	皇學館大学・研究開発推進センター・助教 (34101)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鎌倉 佐保 (Kamakura Saho)		
研究協力者	藤本 誠 (Fujimoto Makoto)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	湯浅 治久 (Yuasa Haruhisa)		
研究協力者	上野 進 (Ueno Susumu)		
研究協力者	千枝 大志 (Chieda Daishi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Transcending the Tangibility and Intangibility : Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia	開催年 2023年 ~ 2023年
---	----------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------